

1. 独立性の高いまとまりのある景観 (遠景)

- ・周辺部を水域に囲まれた当地区の特性を活かし、外周部に高層建築物を、中央部に高さを抑えた建築物を配置することで、独立性の高い群としてまとまりのある景観を形成する。

2. 整序された落ち着いた景観 (中景)

- ・地区内は従前からの骨格的な道路に並行または直行させる道路計画となっており、これに合わせて地区内の建物の向きを整序し、落ち着いた景観を形成するよう配慮する。

3. 豊洲大橋からの景観：海から迎え入れ、また落ち着いた景観 (近～中景)

- ・ドックを中心として外縁部に高層棟を配置することで、群としての景観を形成するとともに、ドック周辺部を低層に抑え、海から迎え入れられるように感じる景観を形成するよう配慮する。(中景)
- ・壁面を整序することで、地区に近づくにつれ、落ち着いた景観が眺望されるよう配慮する。(近景)

4. 十分な隣棟間隔による開放感に富んだ景観 (近景)

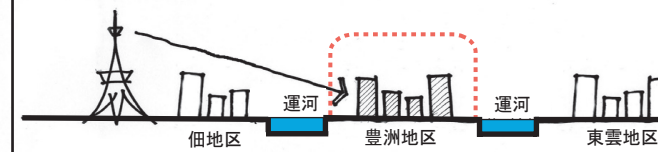
- ・低層部分におけるアメニティ空間の形成と、十分な隣棟間隔の確保により、高い天空率を有する近景景観を形成するとともに、海への良好な眺望の確保に配慮する。

5. 「風の道」の形成

- ・高層棟の間に帯状の低層棟またはアメニティスペースを配置し、南北方向に幅の広い「風の道」が確保されるよう配慮する。
- ・ドック周辺に低層棟を配置することにより、南西方向からの風の入口となるよう配慮する。
- ・豊洲運河沿いにおける建物は45度振ることにより、東方向からの風の入口となるよう配慮する。

■街並み形成方針に基づくイメージ図

○明確な「群としての独立性」を形成 (遠景)

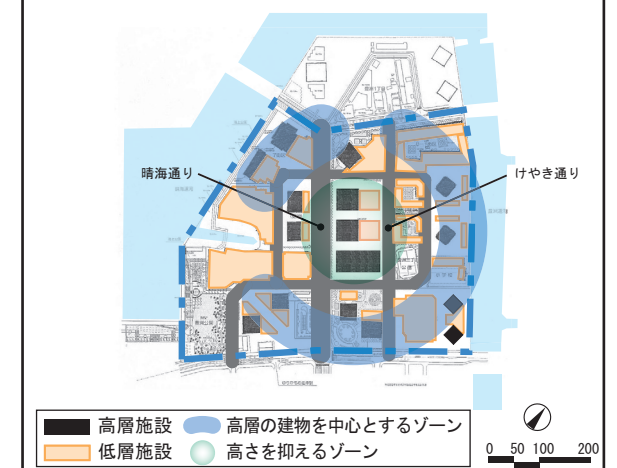


東京タワー特別展望台より (現況)



アイデンティティの高いスカイラインの形成

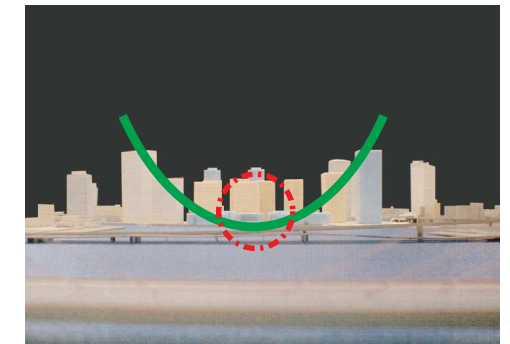
○地区内の街路形成と施設の分布イメージ(中景)



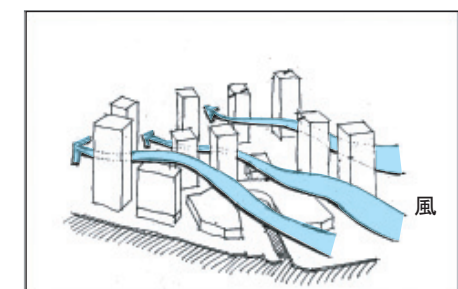
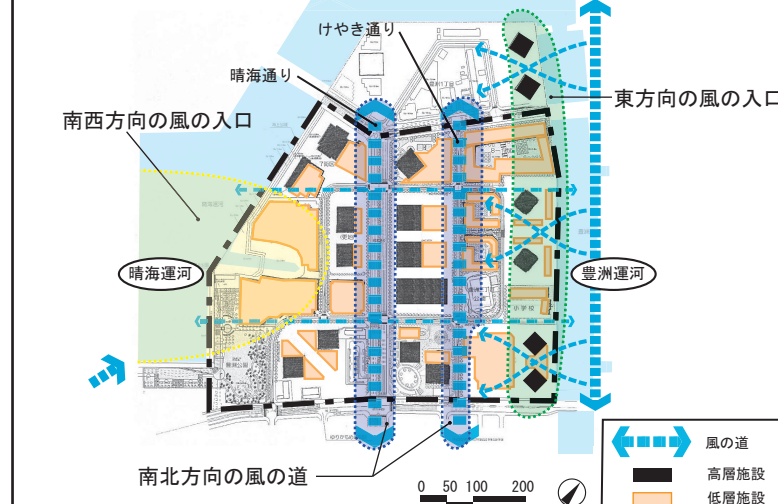
○海から迎え入れる落ち着いた景観 (近～中景)



- ・群としての景観
- ・ドックを中心としたゆるやかなスカイライン



○風の道



※詳細は別紙「豊洲2・3丁目地区の景観について」参照